

No.	審議会	ページ	意見	対応案
70	第4回	P14	図2-13 河川・水路・ため池 について、「こも池」は現時点では埋め立てられて存在しないため、その旨注釈を入れるなどした方がよい。	ご意見を踏まえ、ため池を除いた図に改め、併せて、本文中のため池に関する記述を削除します。
71	第4回	P27	図2-24 配水区域と水道施設及び管路等の平面図 の各水道施設の写真が小さ過ぎるのではないか。	ご意見を踏まえ、大きく表示することとします。
72	第4回	P51	Bq（ベクレル）の意味が一般的には分からないのではないかと。	ご意見を踏まえ、用語解説に記載します。
73	第4回	P51	PFOS、PFOAについては、何の略かを入れないのか。	ご意見を踏まえ、用語解説に記載します。
74	第4回	P52	ng（ナノグラム）の意味が一般的には分からないのではないかと。	ご意見を踏まえ、PFOS、PFOAの用語解説の中で分かるように記載します。
75	第4回	P61	「なお、休止中の香里浄水場及び廃止した大阪市からの受水を除く施設能力 98,600m ³ /日とした場合の令和5年度の最大稼働率は 68.1%であり、令和32年度には約53%まで低下すると想定されます。」について、分かりづらい表現になっている。	ご意見を踏まえ、次のとおり修正します。 【修正前】 なお、休止中の香里浄水場及び廃止した大阪市からの受水を除く施設能力 98,600m ³ /日とした場合の令和5年度の最大稼働率は 68.1%であり、令和32年度には約53%まで低下すると想定されます。 【修正後】 なお、香里浄水場は現在休止中で大阪市からの受水も廃止しており、これらを除く施設能力は98,600m ³ /日です。この施設能力を基に算出した令和5年度の最大稼働率は 68.1%であり、令和32年度には約53%まで低下すると想定されます。

No.	審議会	ページ	意見	対応案
69	第4回	P82	⑥BCP（事業継続計画）の推進 の修正案について、「水道システム」など、かえって分かりづらくなっている。原案の「応急給水・応急復旧」などの文言があった方が分かりやすい。	<p>ご意見を踏まえ、次のとおり修正します。</p> <p>【修正前】</p> <p>地震災害を始めとする様々な危機事象に対し、人材や資機材など限られた資源を用いて<u>水道システム</u>を維持又は早期回復するため、B C P（事業継続計画）を 継続的・ 定期的に見直し、実効性を高めます。</p> <p>【修正後】</p> <p>地震災害を始めとする様々な危機事象に対し、<u>水道の機能を維持又は早期回復するため、応急給水・応急復旧など優先度の高い業務を定め、人材や資機材などを確保する対策として、</u>B C P（事業継続計画）を 継続的・定期的に見直し、実効性を高めます。</p>
75	第4回	P84 P85	⑩効率的な事業運営の A I等の活用と ⑬D X等先端技術の採用 の内容が重複しているように見える。どのような棲み分けをしているのか。	<p>ご意見を踏まえ、「⑩ 効率的な事業運営」は内部事務の効率化に関すること、「⑬ D X等先端技術の採用」は利用者サービスの向上に関すること であることを明確にするとともに、次のとおり修正します。</p> <p>【修正前】</p> <p>⑩ 効率的な事業運営</p> <p>・ A I（Artificial Intelligence）や R P A(Robotic Process Automation)等情報通信技術の活用による<u>事務</u>の効率化・省力化について検討します。</p> <p>⑬ D X等先端技術の採用</p> <p><u>A I（Artificial Intelligence）、I o T(Internet of Things)等、業務の効率化や利用者サービスの向上に資する先端技術について、活用を検討します。</u></p>
	第4回	P85	⑬D X等先端技術の採用の「A I（Artificial Intelligence）、I o T(Internet of Things)等、業務の効率化や利用者サービスの向上に資する先端技術について、活用を検討します。」について、文頭に「寝屋川市が推進している」などの文言を加えてはどうか。	<p>【修正後】</p> <p>⑩ 効率的な事業運営</p> <p>・ A I（Artificial Intelligence）や R P A(Robotic Process Automation)等情報通信技術の活用による<u>業務</u>の効率化・省力化について検討します。</p> <p>⑬ D X等 先端技術の採用</p> <p><u>I o T(Internet of Things)、A I（Artificial Intelligence）等、利用者サービスの向上に資する先端技術の活用を検討します。</u></p>
70	第4回	P88	P D C Aサイクルの図の「評価」について、毎年度評価を実施するのであれば、「事後評価の実施」はそぐわないのではないか。	<p>ご意見を踏まえ、「事後評価の実施」を「達成度の評価」に改めます。併せて、本文3行目の「事後評価」を「達成度の評価」に改めます。</p>